

國策遂行の支部機關としての幼稚園及び學校

倉 橋 惣 三

幼稚園の家庭教育を補ふ云ふ任務について前號でも考へた。これは幼稚園令に示して居る處であつて、その意味は今更説明するまでもないが、この言葉の正面の解釋としてはどこまでも家庭が主體で、幼稚園はこれを外から補ふ云ふ關係に置かれる。幼稚園は一人々の幼兒を大切にするが、その家庭の如く切實、眞實なるものではありにくいであらうし、又若しさうなつたさすれば、その子の爲の家庭云ふものゝ立場が逆倒されてくることになる。即ち子供の爲にどこまでも、家を中心として幼稚園はその補助たるの位置にあると考へるが正しいのであらう。少くも平時に於てかう云ふ考へで一切が行はれてゐると言つていゝであらう。

然し、補助機關であると言ひながら、何もただはたからお手傳する云ふだけの態度に止まるべきでもない。根本に於て補助機關であるとしても、教育的には幼稚園の方が専門家であるとすれば、むしろこつちから家庭へ働きかけて、子供の教育に關する限り家庭をこつちの方へ協力せしめる云ふこともあり得ることであり、あつていゝことである。前號に述べたところは大體この點に關してであつた。ところが、更に一步進んで、幼稚園が中心となつて家庭を導き、家庭をその行くべき正しき方向にひつばつてゆく云ふことさへも必要なことがあるまい。わけても今日の時局の如きに於て常なる生活態度、教育方針が、國の意志に於て方向を向けかへられ、或は、平時以上の進み方を必要とする云ふ場合に於て特にさうである。私はこの點に於て、學校なり幼稚園なりは國策遂行の一支局的中心たるべきものだと云つて見た

い。例へば、國民精神總動員の仕事に於て、これを國民に徹底せしむるに種々の方法がある。それがため種々の團體が各々受持つてその宣傳乃至強制を行はうとするのも一つの方法である。それが漠然たる大衆に向つて行はれる動員よりも有效であるに常に考へて居る。然るに學校なり幼稚園なりは、豫ねてその受持區劃をもつて居るに云つてよい。大きい學校が千餘の兒童をもつてゐる時、學校はその千餘の家庭に對する中心支部となれるのである。幼稚園はこれに比べてその受持の数が少いのを普通とするが、それにしても、百に近い數を持つのを普通としてよからう。のみならずその數に於ては少いが、それだけに關係は密接であり、支局中心としての影響の及ぼし方に於て却つて優れて居るに云ひ得るにこそある。即ちさうした學校なり幼稚園なりが、國策宣傳乃至強制の支局たり支部たる任務を進んで擔ふべき覺悟を持つべきにこそ、有效にして従つて至當なることになるのである。殊に、その國策の實現は、一として兒童幼兒に關係なきものはない。或は奉公の生活實踐と言ひ、或は物資節約の態度と言ひ、今日に於て重要な國民生活の方向となつて居るもの一として幼兒兒童を除外するものはない。敢へて妙な言ひ方をして見るにすれば、生活の複雑なる習慣の中にある大人としては、自分達の生活をかうした方向に嚴密に合致せしむる時に容易でないことを感ずるものにして、子供達に對しては、その方向に向かはしめんとする意志を持たないものはないのである。これを言ひ換へれば、子供を中心とする限り無條件なる實踐の方向に誰もが今直ぐに合致するのである。その點に於てその子供を通じての支局中心たる學校幼稚園の有效なる働らきが、期待せられ得るわけである。

○

幼稚園なり學校なりは、國策實行の支部機關として直接に國の方針に従つてその子供達を教育する。子供達はこの支部機關の國家から直接の力の力強さに於て生活をその方向に指導せられず居ない。唯その子供達が、時間的にも、生活の實質に於ても、學校幼稚園以上の影響を受けずに居ないところの家庭が、果してその國策に眞に充分に一致せる生活態度をもつて居るか否かは重大なる問題である。平時の道德的、又社會的なる生活態度に於ても、學校幼稚園と同一の考へ方と實踐を家庭が持つてくれない限り、その子の教育が眞に徹底しないことは常に憂へられるところである。それが況んや

時局に基く特別な方針である場合、家庭及び幼稚園は、それが持つだけの力に於てそれを子供に徹底させようとはするが、家庭の協力なくしてこれを實行することは極めて容易でないことしなければならぬ。況んや、家庭が反對の方向にその生活の實行を行つてゐる場合、子供はその學校に於て與へられ、家庭に於て奪はれ、又學校に於て濃厚にせられ、家庭に於て薄められ、何等の結果を見ずに終ることなしとせないのである。そこで幼稚園學校は家庭に向つて單に自發的な協力を求めること云ふこと以上、強ひても家庭を同一方向に激勵せずには居られなくなる。この意味に於て幼稚園學校は、強力なる主張者たるのみならず、強力なる督促、又強制促進者として、家庭に立ち向うの任務を自覺しなければならぬ。

この場合、その間にさしはさむところの協力の對象はもてより子供である。家庭そのものを家庭それ自身としてさうあらしめやうかきすることは、或は幼稚園學校の當然の任務ではないかも知れない。殊にその強制力もないであらうし、況んや統制権もないわけである。併しながら、子供に向つてはその大なる任務の自覺と力を持つて居る。そこで、家庭は家庭として假りに勝手にあらうともその子供に對する教育に於て家庭の方へ注文し要求し強要するところの當然の責務を持つて居ることは云へやう。家庭が、學校幼稚園のかうした要求に合致し來たりくれることなしに幼稚園學校は子供への國策の教育をなし得ないこと云ふのである。又家庭へ向つて云ふのである。而してこれは、恐らく最も強き強制力であり統制権であることになるのであらう。

○ 實際の問題として幼稚園學校は、その子供の家庭の教育方針に對し、充分の尊敬を拂ふ心構を必要とするものである。殊に文化の進みたる社會に於てその子供の教育に關し家庭は充分に尊敬せらるべき權利を持つてゐることも云へる。この意味に於て、理解ある學校幼稚園は家庭に對して屢々遠慮深き態度をさへもてることが稀でない。これはこの原理に就て正しさもあることであり、わけても美しさのあることでもある。併しその正しさが、その美しさ、時としては家庭に對する學校幼稚園の主張の弱さをも伴はないに限りない。わけても、幼稚園に於てその觀が少しも見ないのである。或場合に於ては相當に遠慮深さを通りこしたるが如き態度をもつて、家庭に對する風もないことは言へない。その習性は、今日の如

き時局に於て、苟も國策遂行支部機關として立たなければならぬ時には、その力の弱めらるゝことを往々にして遺憾とする。こゝに國策遂行支部機關と云ふ意味はもとより、官立の施設、公立の施設に限らるべきものでない。個人經營の學校幼稚園の場合に於ても、その社會的存在の機能は、實に何れも同じく國策遂行の支部中心機關たる位置に置かれて居るのである。今日に於てかうした自覺から學校幼稚園のさるべき態度にいろいろ大事な點があるを信ずる。

吾々は、かく言ふことに於て幼稚園學校がその平生的なる當然の任務を捨て、それらの宣傳に當るを云ふ如きことを意味して居るものではない。近時往々にして學校幼稚園の宣傳機關の利用を云ふやうのことが輕々しく口にせられたりするが、吾々のこゝに考へてゐるのはこれは決して同一ではない。吾々の言はうとする事はごまでも教育作用としての考へ方である。その子への教育効果の必須性を家庭に要求するのである。その家庭への單なる宣傳徹底の爲ではない。さうすることなしに子供への、實質的徹底が出来ないから家庭へ要求するのである。勿論かうした結果は家庭そのものへ徹底することになるのであり、結果に於て異つたものになるのではないかも知れないが、その何が故に家庭に強要し、何が故に家庭に統制權をさへも振はうとする動機はごまでも異なるのである。それが、ごまでも教育的なのである。國策の遂行は國策の爲に必要なものであることは言をまたない。併し國策に子供を添はしむることは大きな教育である。國策それ自身の内容に於て大事であると共に、國策に従ふに云ふそのことに於て教育意義の大なるものがあるのである。その大なる教育意義のまさり氣なき、たるみのなき實現の爲に、學校幼稚園はその教育權に於て家庭に強制し又家庭を統制せんとするのである。而してこれを行ひ、教育的意味に於てその誤りなき効果を擧ぐる爲には、教育者自身の國策に對する信念と共に、子供を國策に従はしめんとする教育責任感の忠實にして強烈なるものが先づなければならぬ。教育者は、一人として絶對の眞、眞の完全を云つた理想への忠實に強烈性を持つてゐないものはない。これによつてその日々の教育を行うてゆくのであり、また家庭をも之に協力せしめやうとするのである。しかもかうした一般的なる態度の上に、時局の必須とするところの國策への忠實なる態度を、これを兒童幼児の上に徹底させずにおかないを云ふ強烈性を缺くこと

を許されないのである。しかも、その前者の態度に於ては、各家庭が教育者の意圖に十全なる合致を見ないとしても、さう甚だしき強制を行ふことは、結果に於てむづかしいと共に、態度に於てもしかねるところもあるのである。こゝに、子供に強く家庭にはそれ程強くない教育者の平生の態度が出て來るのであらう。これに對して後者の場合に於ては、子供に強きこと云ふことは、家庭に強きことなくして意味をなさないのであり、後者の平生の態度から一步進み出でたる態度をも要求されずに居られなくなるのである。後者よ國策遂行支部中心機關の任務を引き受くるものとして、平生とは違つた強き態度に立たなければならぬことを多いのを忘れてはならぬ。

文部省主催の保育講習が、本年は開かれませんが、大正五年その第一回が開かれた以來引つゞき毎年開催せられ來つたものです。我國保育界に多大の實質的貢獻を與へると共に、保育界に權威を加ふる存在であるのです。それが、本年開かれなことは遺憾の至りです。來年は是非開催せられることを信じて待つてゐます。